

❖ 大学COC事業とは

文部科学省が実施する地(知)の拠点整備事業。大学が、自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図ることを目的としています。倉敷市芸術科学大学は、平成26年にくらしき作陽大学と共同で申請し採択されています。

❖ 倉敷未来プロジェクトとは

若者が地域に触れる機会を増やすことにより、地域への愛着・帰属意識を醸成し、将来倉敷に関わる人となってくれることを目的とした事業で、倉敷市と市内商工会議所、大学などが連携して取り組んでいます。



<お問い合わせ先>

倉敷芸術科学大学 COC 事務局  
(学外連携センター)  
電話: 086-440-1165

倉敷未来プロジェクト実行委員会事務局  
(倉敷市くらしき情報発信課)  
電話: 086-426-3061

❖ 制作風景



①「屏風」について、それぞれがこれから制作する構造他、「対象を知る」ことからスタートしました。まずは、聞くこと。表具師さんから屏風の仕組み、構造についてを聞いています。屏風自体を初めて見る学生もいました。



② 作業を一つ一つ実演して見せていただきます。糊の作り方、溶き方、刷毛の使い方。もちろん何故、この工程があるのかも作業の意味についても学びました。



③ 理解が出来たら、自分たちで作業を始めます。聞いただけではわからないこと、実際に触れ、作業することで見えてくることがありました。



④ 糊を伸ばし、刷毛を動かします。刷毛の持ち方にも意味があります。



⑤ 丁番、どちらにでも曲がる不思議な構造。丈夫な和紙素材や、その歴史についても学びました。



⑥ 10回の授業によって屏風が出来上がりました。それぞれのグループは、アイデアを実現すべく、独自の技術技法を考えながら取り組みました。そして：アイデアを実現する特別な技、助けてくださった職人技の凄さにそれぞれが気づくことになったのです。



⑦ 表具師のみなさんと。

倉敷屏風  
プロジェクト

倉敷芸術科学大学  
芸術学部

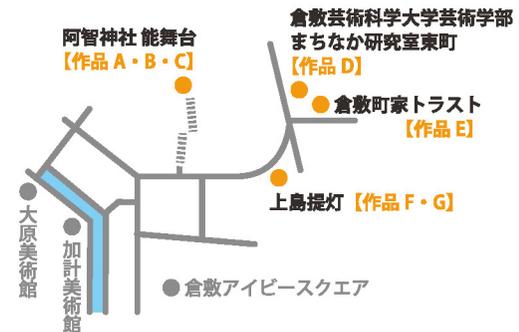


倉敷未来プロジェクト

平成30年10月20日(土)・21日(日)

倉敷屏風祭りでの展示場所

(作品番号は裏面参照)



倉敷のまちの一員である学生達が、オリジナル屏風を制作し、伝統ある倉敷屏風祭に参加させていただくことになりました。制作した屏風は、単に絵を描くだけではなく、岡山県表具内装協会様の多大なご尽力、ご指導により、その屏風自体を作るところからはじめました。屏風制作に用いる和紙など伝統素材や、制作に用いる道具、またその扱いといった職人技、伝統技術までも、その制作工程を通じて学ぶ機会をいただきました。

阿智神社の祭礼に家々が屏風を飾り、花を生け、人々をもてなしたという「倉敷屏風祭」。学生たちが感じる「今」を大切に制作しました。統一テーマは「倉敷」です。古き良き佇まいを住民が守り、町並み、暮らしぶりを残してきた街の祭りに参加させていただくことは、まさに伝統に参加し、肌で知る稀有な機会に違いありません。

作品A



白鳥屏風

美観地区を訪れるときと誰もが目にする白鳥を美観地区の守り神の様に感じ、伝統的な箔の技術などを使い堂々と羽を広げ翔び立とうとする姿を描きました。

制作：原田よもぎ・宮下真巳

作品B



蓮

夏がやって来ると見られる連島れんこんの花が咲く光景を、水墨を基調に描きました。モノトーンの葉と鮮やかな花の対比の関係を楽しみながら制作しました。

制作：中本花弥・宮下真巳

作品C



ようこそ、美しき未知の方

私達は、「現代×伝統」というテーマの下、倉敷で有名なマスキングテープと屏風の伝統的な技術を組み合わせて倉敷の美しい藤の花を表現しました。

制作：潮嘉子・村田真美・木下雄太  
胡哲豪・周振涛

作品D

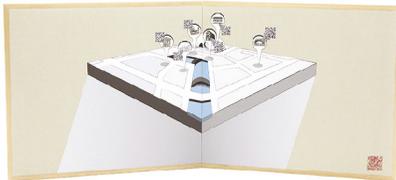


愛する街

私達の愛する街、倉敷を表現しています。片面は児島虎次郎と大原孫三郎の似顔絵をポップに表現し、もう片面は倉敷の風景や特徴を華やかに描いています。

制作：東すず・森田玲音・高橋枝里  
王伝斉・曹雨霏

作品E



ピカンチズ

ピカンチズのコンセプトは「カメラで楽しむ屏風」です。トリックアートやQRコードを読み取るとその場所がスマホで出てくる仕掛けがあります。

制作：前田歩孟・頭司大輝・石崎彩華・許智鴻

作品F



倉敷をきりとる

モチーフは、倉敷の観光地と名産品です。水彩の微妙な色や表情の変化、アクリルの存在感のある絵をじっくりみてお楽しみください。

制作：谷結羽・桑田雄太  
劉胡天朗・兵頭比奈子

作品G



倉敷のカタチ

倉敷名産のものをモチーフに、切り絵とはんこを用いて表現しました。遠近感を考えながら配置しているので少し離れた奥行きを感じていただきたいです。

制作：上野萌夏・濱田祐花  
鈴木香遥・中野希望